

# 「1年生の意識調査」～数学アンケートからわかったこと～

北宇治中学校分会 田中正浩

はじめに

北宇治中に転勤し、1年生を担当することになった。1年生を教えるのは5年ぶり。とりあえず最初の授業でアンケートをとった。その結果をまとめた。

## 1 アンケートの内容

### 数学アンケート

正直に教えてください。

- ①数学(算数)は好き? ……(ア. 大好き イ. 好き ウ. ふつう エ. 嫌い オ. 大嫌い)
- ②数学(算数)は得意? ……(ア. とても得意 イ. 得意 ウ. ふつう エ. 苦手 オ. 大の苦手)
- ③得意の分野は? ……(ア. 計算 イ. 図形 ウ. 文章題 エ. 比例・反比例 オ. なし)
- ④苦手な分野は? ……(ア. 計算 イ. 図形 ウ. 文章題 エ. 比例・反比例 オ. なし)
- ⑤数学の授業に対する要望(こんな授業にしてほしい)

## 2 アンケートの結果

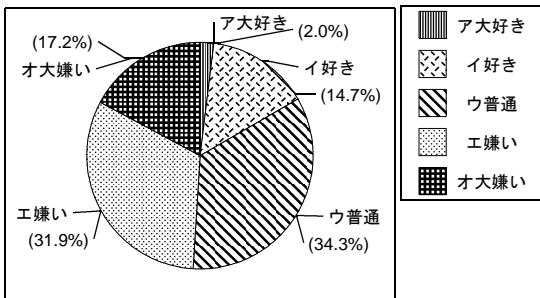
①数学は好き?		②数学は得意?		③得意の分野は?   割合		④苦手な分野は?   割合			
ア大好き	4	アとても得意	5	ア計算	71	34.8%	ア計算	17	8.3%
イ好き	30	イ得意	23	イ図形	59	28.9%	イ図形	19	9.3%
ウ普通	70	ウ普通	78	ウ文章題	10	4.9%	ウ文章題	111	54.4%
エ嫌い	65	エ苦手	67	エ比例・反比例	6	2.9%	エ比例・反比例	44	21.6%
オ大嫌い	35	オ大の苦手	31	オなし	58	28.4%	オなし	13	6.4%
合計	204	合計	204	合計	204		合計	204	

## 3 考察

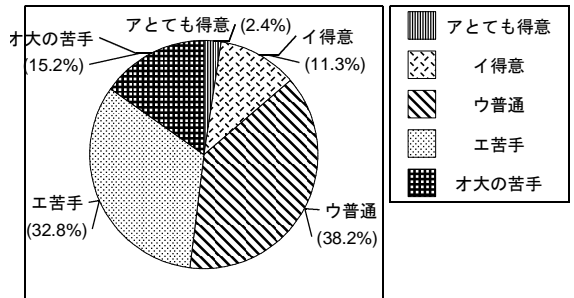
①と②の分布がほとんど変わらない。つまり「好き」←→「嫌い」と「得意」←→「苦手」の割合がほぼ一致している。このことは「好きこそものの上手なれ」の言葉通りである、ということを示している。

①-②の相関関係を調べてみると、①、②ともに同じ記号を答えた生徒は全体の67.6%であった。「嫌い」だが「得意」という生徒は2名、その逆はいなかった。

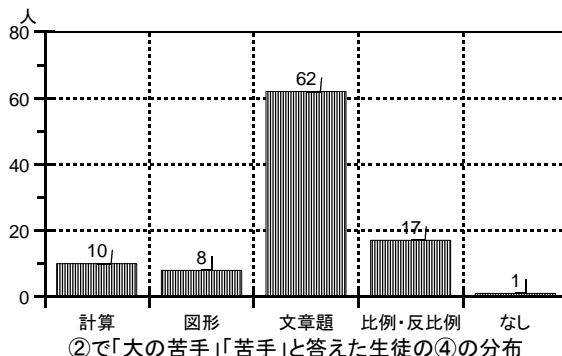
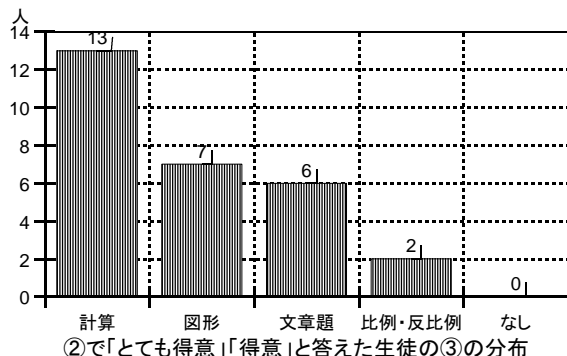
数学は好きですか



数学は得意ですか



②で「とても得意」「得意」と答えた生徒が③でどの分野を「得意」と答えているかを調べたところ、半数近くが「計算」と答えていた。(全体でも約1/3が「得意」である。)逆に②で「大の苦手」「苦手」と答えた生徒が③でどの分野を「苦手」と答えているかを調べたところ、2/3近くが「文章題」と答えていた。(全体でも半数以上が「苦手」である。)



以上のことから、今年度本校の新入生について、次のように特徴づけることができよう。

- (1)算数(数学)を約半数が嫌っており、苦手になっている。「算数好き」は6人に1人、「算数得意」はさらに少ない。
- (2)ところが、苦手意識を分析すると、計算については比較的苦手意識が薄く、「文章題」に対する意識が驚くほど大きいことがわかる。
- (3)小学校段階でいわゆる「単純計算」はドリル的に十分な習熟がなされていて、得意としている生徒もある程度いるのだが、それを利用して文章問題を解くことは苦手である。

文章問題を解くには計算力だけでなく、読解力や分析力といった総合的な能力が必要になってくる。計算力は繰り返し練習すればよいが、じっくり考える力はドリルでは身に付かない。そして、そういった能力こそが「生きた学力」と言えるのではないだろうか。本来、数学という学問は生活の中から生まれてきた、生活に密着した学問である。生活に根ざした「生きた問題」に取り組み、解決する喜びを味わえるのが数学の魅力なのではないだろうか。ところが、多くの生徒がそういった喜びを味わうどころか、そういう問題に取り組むことを大の苦手としている。もし、多くの生徒が「数学なんか勉強しても将来何にも役にたたへん」という、さめた思いを持って入学してきているとしたら、これはとても残念なことである。

#### 4 結論

アンケートの⑤(要望)で多くの生徒は「おもしろい授業」を望んでいた。また、「わかりやすく教えてほしい」という意見も多かった。裏返せば、現行の学習指導要領のもと、小学校で学んできた算数を「おもしろくない」「わかりにくい」教科と感じ、こういう要望をしているのだろうと思われる。だからこそ、我々数学教師は数学のおもしろさ、魅力をもっと伝える努力をしなければならない。

今回のアンケートはちょっとした思いつきで実施したものであったが、その結果を分析する中で「このままではいけない」という思いを強く持つに至った。今後、自分自身も含め、全国の数学教師は教材や授業方法についてもっと研究し、「数学大好き」人間、そして、「やりかたを覚え込まされ、機械的に処理できる」のでなく、「自分の頭で考えることのできる」人間をたくさん育てていかなければならないと思う。